

# 令和5年度 社会福祉法人元氣会 認定こども園新川西コグマ保育園 自己評価

平成30年4月1日に施行された保育所保育指針において、「保育所は保育の質の向上を図るため、保育の計画の展開や保育士等の自己評価を踏まえ、自ら評価を行い、その結果を公表するよう努めなければならない。」ことが明記されています。このことに基づき、本園では自己評価を実施し、その評価の結果を公表し、その結果を踏まえ、今後も保育内容等の充実を図ってまいります。

＜評価について＞評価をするにあたっては、以下の基準で行っています。

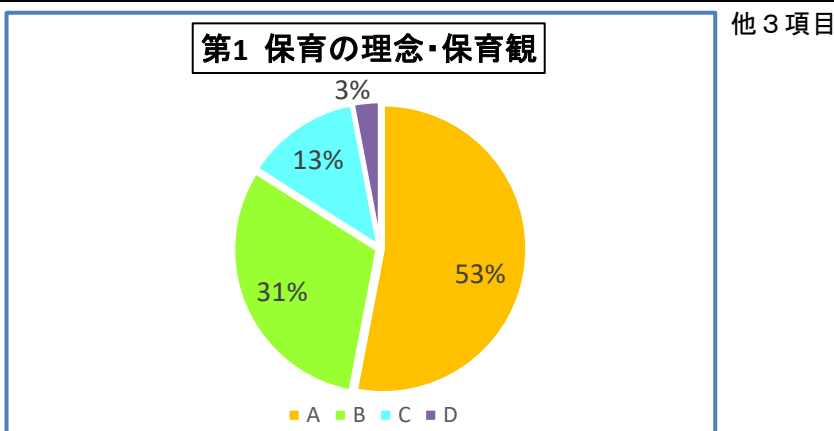
- A：たいへんよい。とてもあてはまる。とてもできている。
- B：よい。あてはまる。できている。
- C：一部検討を要す。あまりあてはまらない。あまりできていない。
- D：改善を要す。あてはまらない。努力が必要。

なお、本園で採用しているチェックリストは、日本保育協会が作成したものです。各項目の設問は一部を紹介しています。結果については、集計データと評価語で記載しています。

## 第1 保育の理念・保育観

- |    |   |
|----|---|
| 1) | すべての子どもについて、一人ひとりの存在とその人権を尊重している。                                 |
| 2) | 児童福祉法の理念に基づき、子どもの最善の利益を考慮して、子どもの生活と健全な発達を保障する事が保育所の重要な使命だと理解している。 |

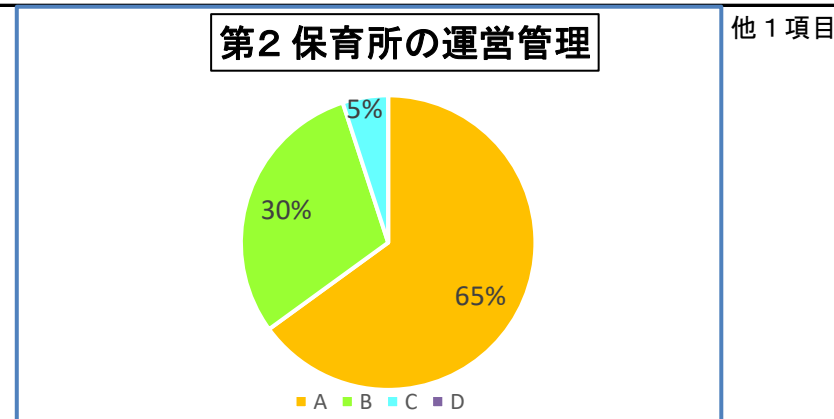
昨年度と同様、A、Bの割合が多く、子ども一人一人を尊重し、保育している。  
C及びDの回答が多かったのは、「保育所保育指針」を拠り所としているかの回答であった。自分の経験や勘に頼ることなく、根拠となる理念を理解して保育にあたるよう、研修を積んでいく。



## 第2 保育所の運営管理

- |    |                                |
|----|--------------------------------|
| 1) | 保育所における自分自身の役割や責任の範囲などを理解している。 |
| 2) | 個人情報の保護や守秘義務に関して理解している。        |

保育士としての職責をしっかりと捉えて取り組んでいる。  
Cの評価は、入職間もない職員であった。園内における役割や職責について不安にならないよう丁寧な関わりを継続していく。



### 第3-1 保育の内容(生命の保持)

1)	子どもの発育や発達の状態、家庭での食事、睡眠などの状態について保護者から情報を得るようにしている。
2)	登園時、子どもの健康観察(機嫌、顔色など)を行っている。

他1項目

### 第3-2 保育の内容(情緒の安定)

1)	一人一人の子どもの生理的欲求(食欲や睡眠など)が満たされるよう配慮している。
2)	登園時、子どもの状況に応じて、抱いたり、優しく声を掛けたりしている。

他3項目

### 第3-3 保育の内容(健康)

1)	一人一人の子どもが、伸び伸びと遊べるよう見守っている。
2)	いろいろな遊びの中で、全身を使って体を動かすことができるよう配慮している。

他3項目

### 第3-4 保育の内容(人間関係)

1)	いろいろな遊びや活動の中で、子どもが自分なりに考えて行動できるよう配慮している。
2)	子どもが、自分でできることは自分でしようとする意欲や姿勢を十分に見守っている。

他2項目

### 第3-5 保育の内容(環境)

1)	子どもが、全身を介して直接自然と触れ合う体験をする機会を設けている。
2)	子どもが、自然に対する驚き、自然の美しさに感動する気持ちを抱かせるような援助をしている。

他1項目

### 第3-6 保育の内容(言葉)

1)	子どもの発達や理解力などに合わせた言葉を使うよう心がけている。
2)	子どもの表情や姿をよく観察し、その場に適した言葉がけをするよう心がけている。

他5項目

### 第3-7 保育の内容(表現)

1)	子どもが、歌ったり、リズムに合わせて体を動かしたりして、表現の楽しさに気付くよう配慮している。
2)	子どもが、感じたことや考えたことなどを音や動きで表現できるよう工夫している。

他2項目

### 第3-8 保育の内容(全般的配慮事項)

1)	一人一人の子どもの心身の発達や活動の実態を踏まえた保育を行うよう配慮している。
2)	一人一人の子どものその時々のお気持ちを受けとめて保育を行うよう配慮している。

他1項目

### 第3-9 保育の内容(乳児配慮事項)

1)	一人一人の乳児の発育や発達の状態をよく観察したうえで、常に体の状態を細かく観察している。
2)	乳児のしぐさや声を介して発する欲求を察知し、タイミングよく応答している。

他1項目

### 第3-10 保育の内容(1～2歳児配慮事項)

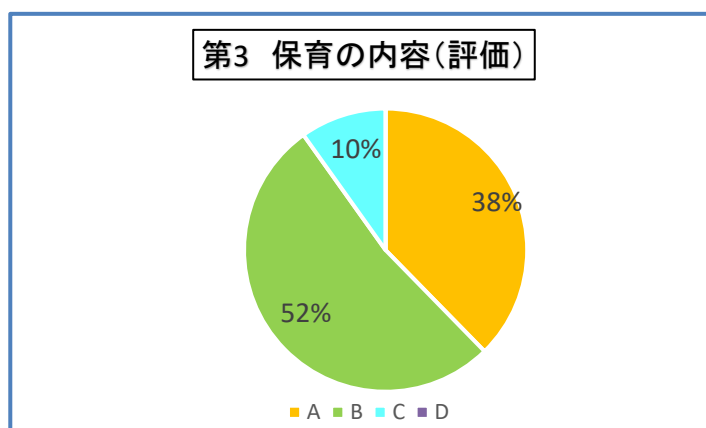
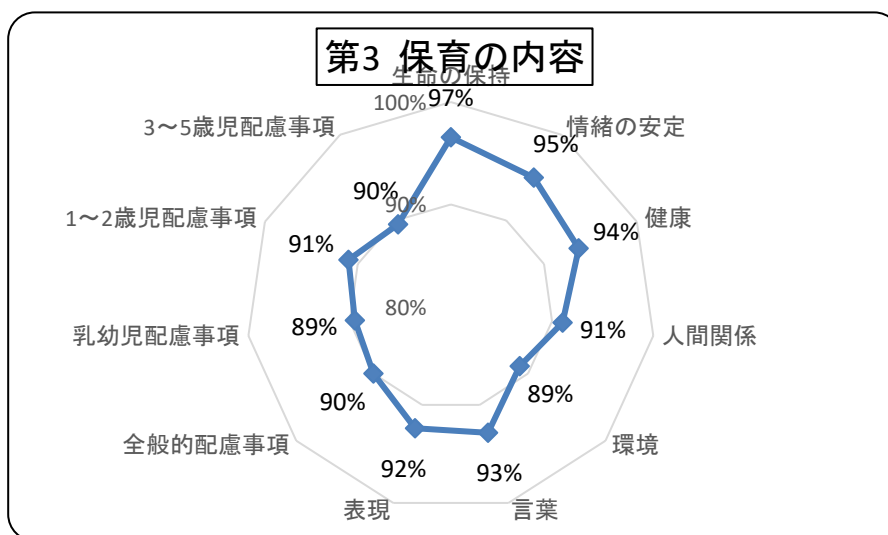
1)	1～2歳児の基本的な生活習慣の習得については、一人一人の子どもの発達過程に応じて行っている。
2)	1～2歳児が、楽しい雰囲気の中で、自分で食事をしようとする気持ちを大切にしている。

他3項目

### 第3-11 保育の内容(3～5歳児配慮事項)

1)	3～5歳児が、生活に必要な習慣や態度を身に付け、適切な行動を選択できるよう配慮している。
2)	3～5歳児にとって、保育所の保育が小学校以降の生活や学習の基盤の育成につながることに留意している。

他2項目



A、Bの評価が一番高かった項目は、昨年度同様「生命の保持」であった。今年度は、次に「情緒の安定」、さらに「健康」、「言葉」と続く。

「生命の保持」では、どの保育士も活動中、食事中、午睡中などの子どもの様子を観察し、他の保育士とも情報共有に努めている。

「健康」に関しては、今年度は、新型コロナウイルスが5類に移行したことで、他の様々な感染症が流行した。子どもの身体の変化に十分に目を配り、保護者とも連携を密にすることができた。

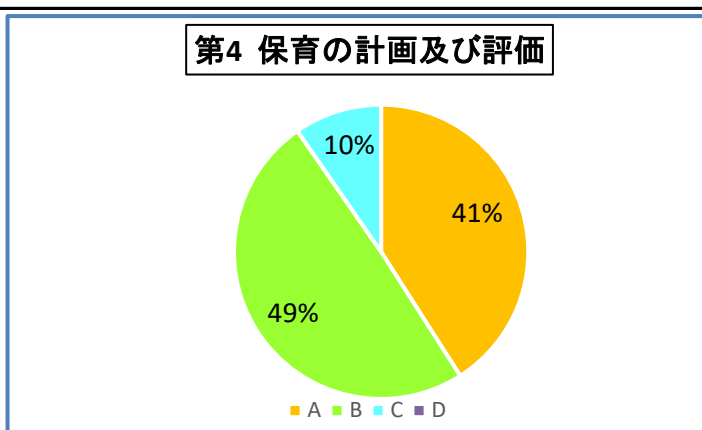
「言葉」の項目では、自分がしたいこと、してほしいことを言葉で伝えられるよう、年齢に応じた関わり方をしてきた。「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」を意識して、取り組んでいく。

## 第4 保育の計画及び評価

- |    |                             |
|----|-----------------------------|
| 1) | 保育所の保育課程を理解している。            |
| 2) | 指導計画を作成する際、保育課程に基づいて作成している。 |

他 6 項目

日々の子どもの様子や発達を観察し、興味・関心を生かした週計画、月計画を作成している。  
指導計画の評価や反省がその時の感想にりがちである。ねらいに沿った配慮事項や評価ができるよう、研修をしていく。



## 第5-1 健康及び安全(子どもの健康支援)

- |    |  |
|----|--|
| 1) | 子どもの日々の健康状態を把握し、一人一人の保育に生かしている。              |
| 2) | 子どもの健康診断の結果などから、子どもの発育状況を把握し、一人一人の保育に生かしている。 |

他 8 項目

## 第5-2 健康及び安全(環境及び衛生管理)

- |    |   |
|----|---|
| 1) | 衛生管理に対する園の方針などを理解している。                    |
| 2) | 保育に従事する者として、服装や身支度に配慮し、自らの健康と清潔を常に心がけている。 |

他 4 項目

## 第5-3 健康及び安全(事故防止及び安全管理)

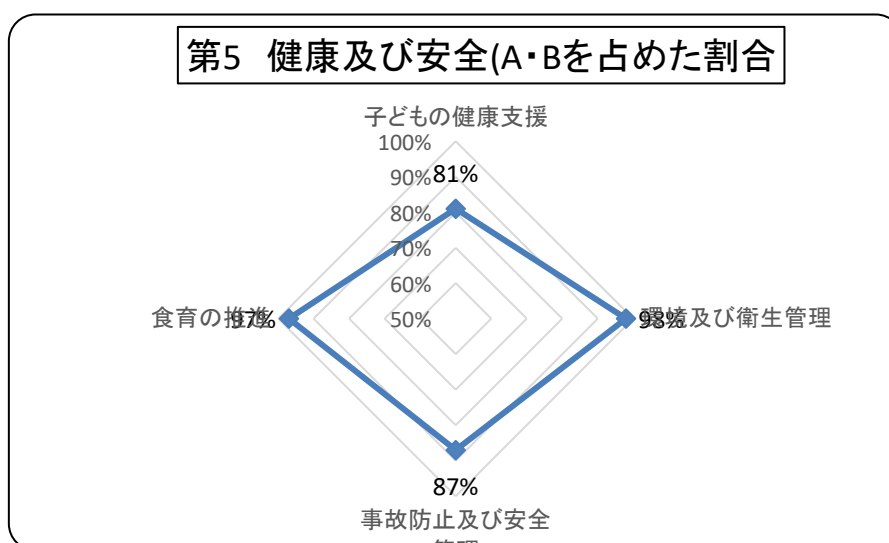
- |    |                             |
|----|-----------------------------|
| 1) | 事故防止や安全管理に対する園の方針などを理解している。 |
| 2) | 園内の設備、玩具、用具などを定期的に点検している。   |

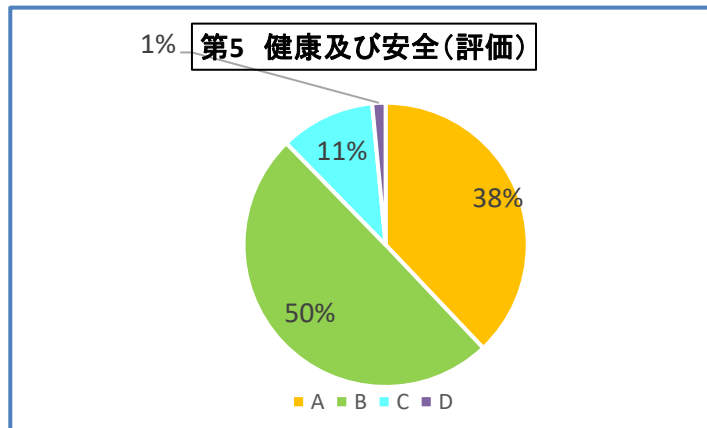
他 6 項目

## 第5-4 健康及び安全(食育の推進)

- |    |   |
|----|---|
| 1) | 食事が保育の内容の一環であり、食育として位置づけられていることを理解している。 |
| 2) | 子どもが落ち着いて食事やおやつを楽しめるよう配慮している。           |

他 4 項目





A、Bの評価が多い順は、「環境及び衛生管理」、「食育の推進」、「事故防止及び安全管理」、「子どもの健康支援」であった。

どの職員も子どもが使用する場所や用具を消毒し、常に清潔に保とうと努力している。今後も、衛生管理と事故防止のために日常的な点検と研修を実施していく。

今年度の年長児は、毎日の給食食材をボードに貼ったり、オンラインで生産者と対話したりする機会を設けた。年間を通して「食育」に取り組むことができた。食材に興味をもち、栽培活動への広がりもみられた。

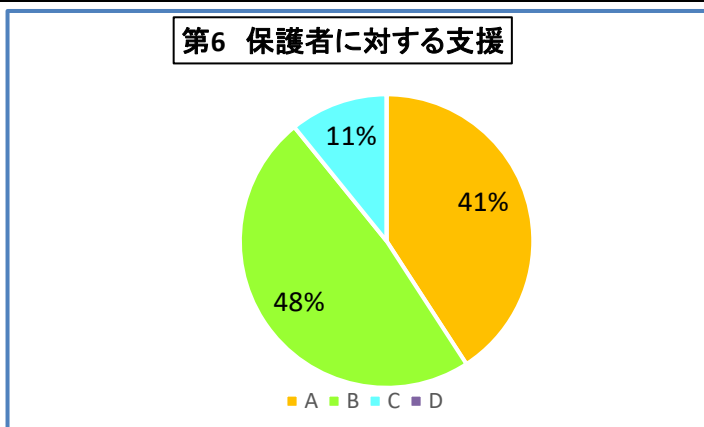
災害対策については、「保育所安全計画」を見直し、職員への周知を徹底し

## 第6 保護者に対する支援

1)	送迎の際など、保護者と積極的に言葉を交わしている。
2)	送迎の際の会話や連絡帳を活用して、保育の内容や子どもの様子などを保護者に伝えている。

他 4 項目

保護者が安心して話や相談ができるよう、温かい雰囲気であることに努めた。  
送迎時、保育士からの発信では、できことを伝えるように心がけた。  
便りにも就学前の相談や子育てについて相談を受け付けていることを記載し、保護者支援を行った。今後も園全体で保護

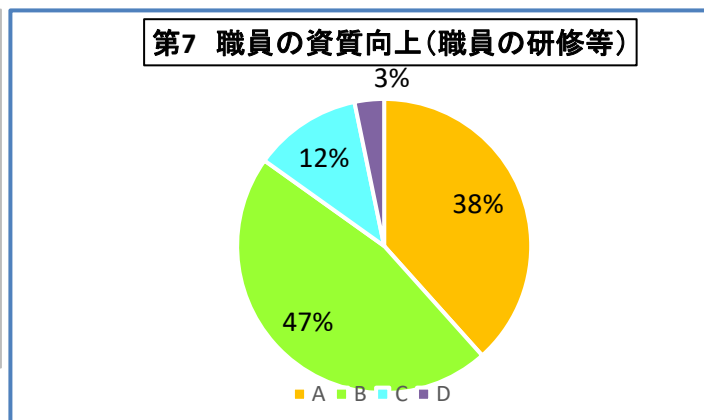


## 第7 職員の資質向上(職員の研修等)

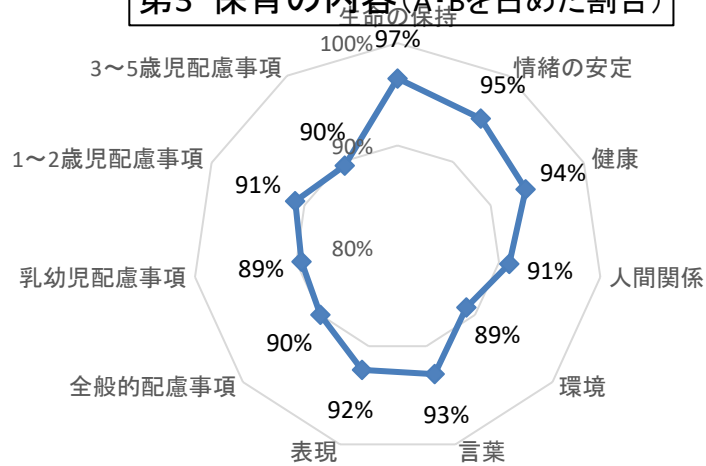
1)	自身の人間性や倫理観が子どもに影響を与えることを自覚している。
2)	園内で行われる研修や会議に積極的に参加している。

他 8 項目

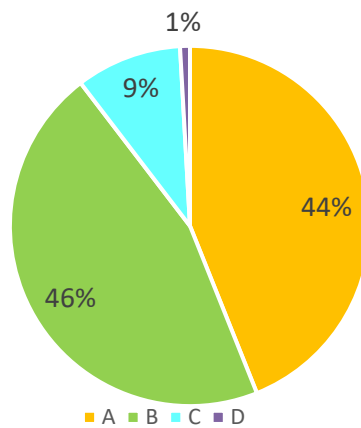
外部での研修参加も徐々に増えている。また、救命救急について外部講師を招聘して園全体で研修を実施することができた。大きな成果と捉えており、保育に役立てていく。  
次年度は、年間を通してコンスタントに計画的



### 第3 保育の内容(A・Bを占めた割合)



### 令和5年度 総合評価



開園から4年目が終了する。職員の就業も定着してきており、安定した保育を行うことができた。本園の運営が進められましたのも、保護者、地域の皆様のご協力の賜物である。

課題として計画的な研修の実施や、保育の理念に基づいた保育があげられる。感覚や経験に頼ることなく、研鑽し、職員の資質向上に努めていく。

次年度も全職員で子どもたちの生涯にわたる、生きる力の基礎を培うために、より一層一人一人の居場所づくりに心掛け、心の安定を図る保育を実施していく。「カラダ」「ココロ」「アタマ」の成長をバランスよく促せるよう、用語と教育を実践していく。